

価値あるロータリー活動を を続けていくために

対談シリーズ 第6回

「親善と平和の確立に寄与する」ことを目指した、国際ロータリー。先の見えにくい社会の中で、どのような役割を必要とされているのか、国際ロータリー第2520地区ガバナーに就任した菅原裕典氏が各界の第一人者に聞いた。



仙台市長応接室で

菅原 ロータリークラブ活動のイメージをお聞かせください。

奥山 ロータリークラブの皆さまには、地域社会の発展のため、幅広い分野で地域に根差した活動を積極的に展開されておられます。日頃から、奨学金制度ですとか留学生の支援を通じての若い世代の育成や国際親善、また植樹などの奉仕活動に熱心に取り組まれていらっしゃるかと存じておりますし、特に東日本大震災に際しては、ご寄附や、被災地の子どもたちへのスポーツ支援など、様々な方たちでご尽力をいただいております。

菅原 昨年は「国連防災世界会議」が開催され、今年も間もなく「G7 仙台財務大臣・中央銀行総裁会議」が開催されます。仙台を世界に向けて発信する大きな機会ですね。

奥山 第3回国連防災世界会議は



185か国から、100名以上の首脳・閣僚級の方々を含む6500名を超える関係者にご参加いただき、大変大規模な国際会議となりました。岩手や福島が会場となった事業もあり、仙台や東北の復興を世界に強くアピールできたものと考えています。

その中で、5月にG7仙台財務大臣・中央銀行総裁会議を開催します。昨年の国連防災世界会議のメイン会場は仙台国際センターでしたので、関係者の方からは、G7会議も同じ所での開催と想像していたら、まったく違う場所ですね、と言われます。仙台では国際会議が街中でもできるし、仙台国際センターのような大学と連携した場所でもできる。また自然に囲まれ、日本の歴史と文化を感じさせる秋保のような所でも開催できます。やりたい場所を選んでい

だいたら、我々は一生懸命応援しますよという、発信ができたことは有り難いことだったと思います。

菅原 欲を言えば将来ロータリークラブの世界大会なども開催されれば素晴らしいと思っています。

奥山 昨年の第3回国連防災世界会議が非常にうまく運営できたことに、外務省も大変喜んでくださいましたので、それを評価いただいて、今回のG7仙台財務大臣・中央銀行

「ロータリークラブの世界大会を仙台で」

2015-2016年度
国際ロータリー第2520地区
ガバナー 菅原 裕典氏



1960年仙台市生まれ。2001年から(株)清月記社長。7月1日から宮城、岩手県の第2520地区ガバナー

総裁会議開催につながったと思います。どんな仕事でも一度に高望みはできませんので、まずは与えられた

「新しいことへの挑戦が まちを元気にする」

—— 仙台市長 奥山 恵美子氏

おくやま・えみこ
1975年4月仙台市職員に採用。1993年4月 市民局生活文化部女性企画課長。2001年4月教育局生涯学習部参事（財団法人仙台ひと・まち交流財団メディアテーク館長）。2003年4月市民局次長。2005年4月仙台市教育委員会教育長。2007年4月仙台市副市長（～2009年3月）。2009年8月第33代仙台市（1期目）。2013年8月2期目就任。



仕事をしっかりとこなして実績を上げ、次にまた新たな仕事をさせていただくことです。一步一步の努力がようやくつながり始めました。今は、仙台の街全体の地力を上げていくための大きな第一コーナーを曲がるうとしていっている所であると思います。

菅原 仙台は今、まさに機会とチャンスが与えられているのですね。北海道新幹線も開業し、東北の玄関口として益々仙台の役割は大きいものになると思います。

奥山 仙台は、東北の中核都市として経済をけん引する立場にあるとともに、広域観光連携の推進による東北の交流人口拡大に向けてリーダーシップを発揮する役割が求められています。インバウンドに関しては、首都圏や京都・大阪の関西圏に比べて1周遅れですので、数で勝負するのではなく、質で提供できるように

することです。そうすることにより、長く選んでいただけるようになるればよいと思います。

北海道新幹線の開業は大きな契機になります。今年7月には仙台空港が民営化されます。仙台ではこれまでタイをはじめとする航空路線の誘致に取り組みできましたので、その実績を最大限に生かし、新しい定期便の就航に向けて働きかけを強めていきます。

菅原 震災から5年が経過しました。復興も含めてこれからのまちづくりについてお聞かせください。

奥山 被災された方々の住まいの再建を最優先課題として5年間取り組んでまいりましたが、概ね予定どおりに進捗しており、復興公営住宅の建設など、事業の完了も見通せる段階にあります。今後は、かさ上げ道路の整備など、残る復興事業もしっかりと進めてまいります。

これからは、いかに仙台の持ち味や魅力を打ち出していきけるかがポイントになります。住んでいて楽しいまち、訪れてわくわくするまち、をを目指したいと考えています。新しいことへの挑戦がまちを元気にすると思えますので、ドローンなどの近未来技術の実証実験ですとか、リノベーションの手法で新しい公共空間を創出するなど、先進的な取り組みにチャレンジしてまいります。

菅原 昨年12月に地下鉄東西線も開業しました。仙台の魅力が広がり

ましたね。

「支えていただく皆さんの気持ちがあつてこそ」

奥山 仙台市が東西線を申請した頃は、横浜や川崎でも地下鉄の計画がありました。それまで両都市は国道が発達して道路でいけると思っていました。ある程度のキャパシティを越えようと鉄軌道が必要になってきます。仙台は3都市の中で一番人口が少なく、経済的にもハンディがあります。川崎市はあきらめたのですが、やはり今、困っていらっしゃいます。鉄軌道は大きな財政的負担ですが、逆にそれを乗り越えないと都市は発展できないからこそ、鉄道に力を入れてきたのだと思います。堪え忍んでもやっていく決意をまちとして持てるかどうか、いくら市長がやりたいと言っても、支えていただく皆さんの気持ちがあつてこそなのです。

菅原 この震災を経験したこと、日本一防災に強いまち、そして宝物がたくさんある仙台を日本一住み良いまちに市民の力で作り上げていきたいと思っています。本日はありがとうございました。